

平成28年度 行政評価事業別シート

	実計対象	<input type="checkbox"/>	評価対象	<input checked="" type="checkbox"/>	新規	<input type="checkbox"/>	完了事業	<input type="checkbox"/>	ゼロ予算事業	<input type="checkbox"/>	担当者	永井 毅
	全体計画						経費区分		-		内線	3625
事務事業名	4324 生涯スポーツ事業											
所 属	130500 市民共創部・生涯学習スポーツ課											
施 策	04022000 スポーツ活動の充実											
予算科目	会計	01 一般会計										
	科目	100703 教育費・保健体育費・体育振興費										
	事業	020000 生涯スポーツ事業										
事業目的						事業概要・効果						
市民の誰もがライフステージに応じたスポーツ活動に親しみ、健康の増進や豊かなスポーツライフの実現を図る。						地域別スポーツ教室の開催や学校開放、各種大会・行事を主催し、各種スポーツの普及発展と市民の交流、健康増進・相互の親睦、生涯スポーツを推進する。 海の家事業を平成26年度をもって廃止し、地域おこし協力隊の活動を支援し、須坂市の地域特性を活かした新たなスポーツイベントの検討を行う。 子ども向けスポーツ教室を引き続き体育協会に委託する。						

PLAN-DO

年度実績及び予定

平成27年度 実績	平成28年度 予定
地域別スポーツ教室の開催、学校開放の実施、各種大会等を主催し、全国大会出場者に激励金を交付した。海の家負担金事業は、今年度で廃止することとした。	地域別スポーツ教室の開催、学校開放の実施、各種大会等を主催し、全国大会出場者に激励金を交付する。新たに冬季スポーツの振興を図るため、峰の原スキー場の利用料負担事業を行う。
平成29年度 予定	平成30年度 予定
平成31年度 予定	平成32年度 予定

指標名	地域別スポーツ教室				
算式	600				単位 人
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
目標値	目標	450	480	500	550
	実績				600
指標選定の理由	地域別にニュースポーツ教室を開催し、気軽にスポーツに親しみ、健康増進につなげる。				
最終年度目標の根拠	平成26年度実績値の約40%増				
指標名	竜の里須坂健康マラソン				
算式	3,000				単位 人
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
目標値	目標	2,600	2,700	3,000	3,000
	実績				
指標選定の理由	日頃から健康増進のためウォーキングをしている市民、ランニングをしている市民の増加につながる				
最終年度目標の根拠	平成26年実績値約2割増				
指標名	スポーツリーダーバンク				
算式	40				単位 人
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
目標値	目標	30	34	36	38
	実績				40
指標選定の理由	地域のスポーツ推進のリーダー・指導者の確保、育成				
最終年度目標の根拠	ニュースポーツや各種大会等への指導者派遣要請に応えられる人数				

事業費

(単位：千円)

		平成27年度 決 算	平成28年度 予 算
事業費		27,873	27,525
特定 財源	国庫支出金	0	0
	都道府県支出金	0	0
	地方債	0	0
	その他	3,666	540
一般財源		24,207	26,985
人員数 (人)	正規職員	2.6	0.0
	嘱託職員	1.0	0.0
	臨時職員	0.5	0.0
人員 コスト	正規職員	18,740.8	0.0
	嘱託職員	2,705.0	0.0
	臨時職員	515.0	0.0
	計	21,960.8	0.0
市民一人当たりの経費		1.0	0.5
総額		49,833.8	27,525.0

(単位：千円)

平成27年度決算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	1,486	地域別スポーツ教室、市主催大会役員謝礼等 1,202 全国大会出場激励金 283
11節 需用費	1,057	大会・行事消耗品 717、印刷製本費 155 など
13節 委託費	700	子ども向けスポーツ教室委託料
15節 工事請負費	0	
19節 負担金補助及び交付金	24,307	須高行政事務組合負担金（プール）19,347 竜の里マラソン負担金 3,600 須坂市海の家負担金 1,360
その他	323	

(単位：千円)

平成28年度当初予算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	1,746	大会等指導者謝礼 1,416 全国大会参加者激励金 330
11節 需用費	1,034	大会・行事等消耗品 669、印刷製本費 150 など
13節 委託費	700	子ども向けスポーツ教室委託料
15節 工事請負費	0	
19節 負担金補助及び交付金	23,559	須高行政事務組合教育費負担金（プール）18,139 竜の里マラソン負担金 3,600 峰の原スキー場リフト負担金 1,820
その他	486	

CHECK

個別評価		
項目	評価観点	評価内容
必要性	<ul style="list-style-type: none"> 市民の生命・財産を守るため市が実施することが必要不可欠な事業であるか 行政内部の管理運営上必要な事業であるか 市が主体となり実施すべき事業か 法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか 目的は結果（施策の目指す理想）に結びついているか 	普通
評価コメント	スポーツ教室を主催または委託し、誰もがスポーツに親しむ機会の充実を図った。また、市内学校施設を開放し、社会体育施設の不足を補い、スポーツ団体・サークル活動の促進を図った。	
有効性	<ul style="list-style-type: none"> 事業の成果は上がっているか 目標に対する達成度は十分か 市民生活上の課題解決に貢献しているか 行政内部の管理上の課題解決に貢献しているか 事業の目的が達成できるような事業内容になっているか 	有効
評価コメント	市民の誰もが気軽にスポーツに親しむ機会の提供、きっかけづくりとして、各種教室や各種大会を開催、委託し、家族・地域の交流が深まった。	
効率性	<ul style="list-style-type: none"> 成果を落とさずにコストを削減する方法はあるか 効率性向上に努めているか 使用料などの受益者負担や補助対象事業の範囲など、財源確保の余地はないか 	やや向上
評価コメント	市内全小・中学校の非構造部材の耐震化、照明設備の改修が実施され、利用者の安全性、利便性の向上が図られた。市内小・中学校の学校体育施設の開放に係る使用料改定については、市全体での検討が必要。	

振り返り（決算年度の取組み課題）

子ども向けスポーツ教室は、体育協会に委託し、前期、後期実施され、昨年より多くの子どもたちが参加し、スポーツ人口の拡大につながった。
地域別スポーツ教室の参加者が区役員中心となり、開催方法等今後検討していく必要がある。

ACTION

1次評価

2次評価

次年度以降の方向性	進め方の改善（拡大）	次年度以降の方向性	総合計画に沿って継続
総合評価コメント		2次評価コメント	
<p>健康長寿で生き生きと充実した生活を送るため、スポーツに親しむ市民の割合の増加をめざし、大会の内容やスポーツ教室の開催方法などさらに改善を図っていく。</p>		<p>生涯スポーツ推進のため、体育協会等と連携し大会等を開催して。地域おこし協力隊がより主体的に取り組める業務を明確にする必要がある。</p>	

外部評価

次年度以降の方向性	
外部評価コメント	